

第64回

鈴木三重吉賞

□6□

優秀作品

え・友安 一成(東広島市)

ばあちゃんのがんが 治りますように



広島県世羅町せらひがし小4年 重本 怜央

パン、パン。
「どうかばあちゃんのがんが治りますように。」
ほくと兄は、犬の散歩に行くと、必ず神社に立ち寄って、お参りをします。

ほくのばあちゃんは、今年の五月、体のがんが見つかりました。そのため、ほくたち家族は、五月の終わりに福山から世羅に帰って来ました。
ばあちゃんの治りようは大変で、ころがんさいの点てきをうった日は、はき気やたるさがあったとしてもしんどそうです。

そんなある日、ばあちゃんが新聞で、リレー・フォー・ライフ・ジャパンの記事を読んで、このイベント

に参加してみたいと言い出しました。

がん患者たちが、二十四時間歩きながらリレーをして、一人じゃないから勇気をもってがんと戦おうというのだそうです。その話を聞いたほくたちも、

「ほんまじゃねえ。ばあちゃんのがんが小さくなるんなら行こうやあ。」と、みんなさん成しました。

九月十九日、びんご運動公園でそのイベントがありました。ばあちゃんと母さん、ほくと兄の四人で参加しました。

かん者さんやその家族の人、お医者さんやかん工士さん、ボランティアの学生さん、およそ千二百人が集

まっていました。ほくは、あまりにたくさんの人たちが集まっているので、がんと戦っている人は本当にたくさんおられるんだとおどろきました。

ばあちゃんは、母さんや知り合いのお母さんといっしょのチームでした。四十五番目にインタビュを受けて、出発しました。ばあちゃんは、名前やいつががんが見つかったかを元気に答えていました。

間もなく、スタートしました。パンダを頭に巻いて、手に旗を持って、ばあちゃんは、一生けん命にグラウンドを歩いていました。

ほくは、ばあちゃんや母さんに「がんばれえ、がんばれえ。」と何度も何度も大きな声で応援しました。ばあちゃんが、旗をふって答えてくれたのがわかって、とてもうれしかったです。

ばあちゃんは、少し息を切らしてしんどそうだったけど、走り終わった後で、

「自分一人じゃないんだね。がんのちりょうをしている人がこんなにたくさんいるなんて。参加して本当によかったよ。これからくしげすに、いろんなことにちようせんしていくよ。」とうれしそうに話してくれました。

ほくもこのイベントに参加して、今まで以上にはあちゃんの力になりたいと思つようになりました。

これからも、近くの神社へのお参りを欠かさず続けていきたいです。「どうかばあちゃんのがんが治りますように。」